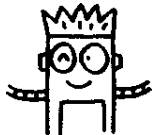


小判1両は、今のお金のどれくらいに当たるの



今のお金で4万円くらいだが、ふくまれている金の
ねだん
値段は、もっと安いよ。

江戸時代に発行された小判は、10種ある

江戸時代には、慶長小判けいちょうこばん（1601年発行）から万延小判まんえんこばん（1860年発行）まで、10種の小判が発行されました。このうち、ふくまれる金の量が多いのは、慶長小判・宝永小判ほうえいこばん（1710年発行）・享保小判きょうほうこばん（1716年発行）の3種で、そのほかの小判は、金の量を減らして、差額を幕府の収入しゅうにゅうにするために、今までにつくられた小判を、作り直したものです。

小判1枚は、今のお金で4万円くらい

小判1枚は、1両です。慶長小判の場合、金が17.8グラムふくまれていたの
で、今の金の値段から計算すると、1両は1万8000円くらいです。しかし、小判1枚の値打ちとしては、4万円くらいです。これは幕府が、「小判1枚は銅銭の4000倍の値打ち」と決めていて、その銅銭1枚は、今の10円玉くらいの値打ちだったからです。